

平成 17 年度「特色ある大学教育支援プログラム」(京都会場)出張報告

日時：2005 年 11 月 23 日(水) 10:30~18:00

場所：国立京都国際会館

出張者：看護福祉学部社会福祉学科教授 大塩まゆみ

1. 午前の部：ポスターセッション

A. 下記の大学のブースで説明を聞いた。

- 1) 千葉商科大学「大学の社会的責任としての環境教育の展開」
・担当者からの説明をきき、『環境が大学を元気にする～学生がとった ISO14001』の本を頂戴した。
- 2) 埼玉県立大学「保健医療福祉の連携と統合を目指し教育展開 Interprofessional 教育の実践と通して」
・当プログラム担当の事務職の方から説明をきいた。
- 3) 神戸女学院大学「音楽によるアウトリーチ 社会に開かれた学び」
・本プログラムを担当されている音楽学の教授から熱心な説明をきき、意見交換をした。
- 4) 関西大学「人間性とキャリア形成を促す学校 internship 小中高大連携が支える実践型学外教育の大規模展開」
・担当教員から説明をきいた。

B. 順番待ちが多かったり、時間が足りず、パンフレット類入手に終わったのは、下記の大学。

- 1) 日本福祉大学「ユニバーサル:アクセス時代の通信教育 生涯学習型ネットワークキャンパスの構築をめざして」
- 2) 福井大学「より高い現代的な教養教育をめざして」
- 3) 富山県立短期大学「フィールド実習をコアとした流域環境教育 健全な水循環系構築に向けたシステム教育」
- 4) 大学コンソーシアム京都「産官学地域連携による人材育成プログラム 京都地域におけるインターンシップの展開」
- 5) 早稲田大学「国境を超える教育的社会貢献活動の実践 行動する国際人の育成」
- 6) 東北福祉大学「ボランティア学習による 21 世紀型市民の育成 ボランティアセンターと地域社会との協働による社会参画型学習の実践」
- 7) 大学基準協会、および文部科学省「大学の設置認可制度に関する Q & A 質の高い大学づくりの仕組み」など

2. 午後の部：事例報告とパネルディスカッション

A. 事例報告は下記の大学・テーマ

- 1) 慶應義塾大学「文系学生への実験を重視した自然科学教育」
- 2) 広島大学工学部・山口大学工学部「工学系数学基礎学力の評価と保証」
- 3) 宮崎県立看護大学「到達目標を共有する教育プログラムの取組み」

B . 審査部会委員と事例報告者によるパネルディスカッションのうち審査部会委員のコメント。

- 1) 国際基督教大学、鈴木氏 慶応大学の場合は、伝統私学の長年の蓄積と大規模校による推進力・財政力あり。建学の精神が生かされており、外圧による取組みではなく母校に対する誇りが良い成果を生み出している。
- 2) 京都大学、林氏 専門教育・理系基礎教育における教育の装置化が、「人材工場としての“学校”教育システムとして発達してきたが、学生の間人としての幅広さを育むような試みや“創造的な”大学教育をどのように造るかが課題。人間味という点では、おもしろみに欠け、大学教育が、大学というよりも小中学校の総合学科のようになってきている。
- 3) 関西大学、岩見氏 大学教育のエクセレンスとは何か 社会・環境とのインターフェイスでは感受性と文脈理解力、人間とのインターフェイスでは動機付けであろう。

C . 最後の挨拶 実施委員長、絹川生吉氏

- ・本プログラムは、大学教育の品質保証をめざしている。しかし理系はそれを示しやすいが、文系は示しにくく、このようなプログラムによって、人文系・教養教育に逆風を吹かせ、それを強める結果になってはいけない。最近、奇抜さをねらったり、技巧をこらす大学が増え、そもそも評価するということは、どういうことか、について、大学人の見識で受け止めることが肝心である。